

第4回 国際政治・外交論文コンテスト

自由民主党 国際局長賞

アジア外交と日本の防衛

富田 洋司

はじめに—アジアの希望と不安—

アジアは今、大きく変貌を遂げようとしています。従来は、貧困、無秩序などの負のイメージが先行していましたが、現在、多くのアジアの国々で飛躍的な経済成長を経験中です。さらに経済発展に伴い、アジアの国同士の相互依存関係も深まってきました。欧州に比し独自性が強かったこの地域においても、ある種の一体感が形成されつつあります。

しかしながら、アジアには冷戦終結後も領土問題や統一問題が根強く残っています。アジアに位置する日本も、いくつかの安全保障に関する不安材料に直面しています。その第1は北朝鮮に関しての不安です。北朝鮮は日本全域を射程距離に収める弾道ミサイルを実戦配備し、核開発を行い、今年10月9日には核実験を実施しました。日本のみならず世界の平和を脅かす国であり、適切かつ迅速な対処が必要です。第2の不安材料は、台湾海峡を巡る問題を抱える中国に関することです。急激に増大し、かつ不透明な軍事力、東アジアに対し覇権を望む体質、我が国との領土問題も不安感を醸し出す要因となっています。第3の不安は国際テロリストによるテロ攻撃です。東南アジアにはテロ組織の拠点も少なからず存在していると言われています。この3つ不安材料以外にも、ロシア、韓国との領土問題、海上交通の要であるマラッカ海峡等での治安悪化など様々な問題があります。

日本の防衛に必要なこと

「日本がアジアの国々に侵略行為をしなければ、また何もしないで平和を願ってさえいれば日本の領土、平和、独立は守られる。」ということを経前は多くの日本人が信じていました。しかし、アジアや世界の情勢を客観的に見渡しますと、それは全くの幻想にすぎないことが判ります。前述した日本の安全保障に関わるリアルな問題について、適切に対処しなければ、日本の領土、平和、独立を守ることはできません。それではどのように守れば良いのでしょうか。このことについて、「軍事的アプローチ」と「非軍事力アプローチ」に分けて、考えていきたいと思えます。

「軍事的アプローチ」適切な軍事力は、脅威を排除するために、またその被害を最小限に止めるために、さらには抑止力として必要です。現在は以前よりも能力重視の防衛力の整備が必要とされています。特に、ミサイル防衛システム、テロや特殊工作部隊への対応の強化が望まれます。こういった日本自身の軍事的な努力は絶対に必要ですが、それだけでは日本の安全保障が十分であるとはいえません。日米安全保障体制の強化、国際協調の充実によって初めて日本の安全保障は完結するのだと思えます。

「非軍事的アプローチ」政治力、外交力、民力など全ての手段を用い、現在の日本のあるが

ままの姿を世界に発信することが日本の安全保障に役立つと思われまゝ。「日本は平和を強く望んでおり、戦後60年間、世界平和のため世界中のどの国よりも努力してきた。」ということを実正しく発信することは、誤解より生まれる脅威を未然に防ぐことを可能とします。国際的安全保障環境の改善は、日本に対する脅威の予防にもなります。日本は世界で唯一の被爆国で、核兵器不拡散条約、国際原子力機関の保障処置を中心とする核不拡散体制の強化、拡散に対する安全保障構想などに積極的に取り組んでいます。1994年以降毎年、国連総会において核軍縮決議案を提出し多くの国の支持を得ています。「わが国は核の拡散を絶対認めない。」というメッセージを、国際社会に強く発信してきました。このことは、核を新たに持とうとする国、世界の平和を脅かす国に対して、大きな圧力となり得るものと考えます。

日本の国際社会に対するプレゼンスを高めることも日本の安全保障に有用と考えます。アジアや世界の繁栄と安定のために必要不可欠な国となることは、脅威の発生を未然に防ぐ上で有用です。アジアを含め世界中の多くの国に日本は積極的に政府開発援助を実施し、各国の発展に大いに寄与してきました。1990年台末のアジア通貨危機の時にも、こういった資金がアジアを救いました。もちろん資金だけでなく、人の交流、技術交流も積極的に行ってきました。スマトラ沖地震などの大規模災害時も迅速かつ適切な援助を行いました。またアジアのみならず世界の平和のため、国連平和維持活動を始めた国際協力にも熱心に取り組んでいます。今後もこういった「顔の見える外交」を積極的に推進していくべきと考えます。

政治的なこと以外にも日本のプレゼンスを高める方法があります。それは、アジアや世界から親しみ尊敬される国になることです。日本は自由で平和な国であることに加え、日本の文化伝統にはアジアを始め世界中に誇れるものが多くあります。伝統的な美術、工芸はもとより、現代の音楽、ファッション、アニメ、ゲームなどの大衆文化、さらには日本食、日本式的生活スタイルなどが注目を集めています。またスポーツや文化、学問の交流も大切にしていけるべきです。日本をよく知ってもらうこと、さらに我々が尊敬されるように努力することは、アジアや世界の人々の心に働きかけます。アジアや世界の人々が「日本の存在を認め、日本と同じような価値観を持ち、日本と友好関係を結びたいと願い、日本のような国になりたい。」と思うことは、日本の平和や繁栄に大いに寄与することになると考えます。

アジア外交各論

「北朝鮮」北朝鮮は、弾道ミサイルを実戦配備しかつ核開発を行っている国です。また、拉致や不審船、麻薬などの問題もおこしている犯罪国家です。すべての核兵器及び既存の核計画の検証可能な廃棄をはじめ、ミサイル、拉致問題、その他すべての不法行為の解決を目指しわが国は厳しい態度を示すべきです。6者協議の参加国と緊密な関係を取り、国連を始め国際社会を味方につけ、圧力をかけていかなければなりません。国連安全保障理事会で北朝鮮制裁決議案を日本が強く要求したことも当然で、今後も迅速かつ適切な対応、まさに圧力と対話が必要です。

「中国」中国と関係は、非常に重要です。日中関係はこの約半世紀のうちに大きく変化してきました。過去の大戦では、日本は中国に多大な被害を与えました。日中国交正常化が始まった頃は、中国はまだ途上国で日本が中国を援助するという関係でした。近年、中国は高度経済成長を続けています。さらに近い将来、中国が日本を追い抜くだろうと多くの人が予測していま

す。今まず、私達がすべきことは、中国を日本と同様の経済大国であると認めることです。中国経済の台頭を危惧する人もいますが、中国の景気拡大は、日本に対しても長引く不況からの脱出といった好結果をもたらしました。また経済において相互依存関係が深まってきていることより、ともに良きライバルとして切磋琢磨し双方に利益がでるような互惠関係を模索していくことが必要と思われます。政治体制において中国は共産主義国であり、わが国のように自由で民主的な国ではありません。台湾海峡を巡る問題、急激に増大し不透明さをもつ軍事力、また東アジアに関する覇権を望む体質など注意を払っていかなければならない点も多く抱えています。日本は自らのプレゼンスをあらゆる方法を使って高め、こういったことに行き過ぎがあれば正しく主張し、是正しなければなりません。従来のように、日本がひたすら頭を下げるといった形の日中友好でなく、真のパートナーシップを築いていかなければなりません。

「地域協力」経済発展によりアジアの国同士の相互依存関係が深まってきました。東アジア共同体形成への期待も膨らみつつあります。地域協力により相互理解を深めることは大切なことです。世界ではさらに進んで、多国間ないし国際社会の協調をもってそれぞれの国の安全保障を完結させるという考え方が主流になってきています。ASEAN+3、APEC、東アジアサミット、ARFなどの場を活用し、日本もアジアの国々と積極的に相互理解に努め、さらには多国間ないし国際社会の協調をもって日本の安全保障環境を充実していくべきと考えます。

おわりに

国の防衛を考えると、軍事力の充実をおろそかにしてはならないことは歴史を見ても明らかです。しかし、現在最強の軍事力を持つアメリカでさえ、自身の軍事力だけでは、自らの安全保障を十分に確保することはできません。同盟国や国際社会との協調が絶対に必要です。また軍事力だけに頼るのではなく、政治力、外交力、民間活力などを含めたソフトパワーが重要視されています。日本の安全保障に関してもバランスのとれた軍事力と非軍事力の充実が望まれます。軍事力に関しては、まさに「備えあれば憂いなし」という諺がよくあてはまります。さらに、「最上の策は、戦わずして勝つこと」という孫子の兵法を心に、軍事面のみならず、政治、外交、ソフトパワーなどの非軍事面の充実を図り、日本の領土、平和、独立を守っていくという決意が必要です。